

## 令和2年度 第1回健康うらやす21（第2次）推進検討委員会議事録

1. 開催日時 令和2年11月17日（火） 午後1時30分から午後2時45分

2. 開催場所 健康センター リハビリルーム

3. 出席者

東邦大学看護学部 : 福島富士子

市民公募 : 鎮守明美 男全寛子 長岡美貴 和田玲子

浦安市医師会 : 加藤篤衛

浦安市歯科医師会 : 岡崎雄一郎

浦安市健康推進員 : 針木悦子

浦安市母子保健推進員 : 村林彩恵

浦安市小中学校長会 : 長野栄一

浦安市自治会連合会 : 石川正純

浦安市婦人の会連合会 : 大塚真理子

浦安市スポーツ協会 : 佐藤健治

浦安市小・中学校PTA連絡協議会 : 中島康治

浦安市民生委員児童委員協議会 : 大村洋子

浦安市老人クラブ連合会 : 宮坂照代

（事務局）

浦安市健康こども部 : 岡部部長、大塚次長

浦安市健康増進課 : 醍醐課長 磯貝補佐、梅澤副主幹、齊川係長、宇都木、鈴木

浦安市母子保健課 : 高柳課長 川補佐、手島係長、田中

4. 議題

（1）報告事項

①健康うらやす21（第2次）の取り組みについて

②高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について

（2）意見交換

（3）その他

5. 議事の概要

（1）報告事項について

事務局より説明

（2）意見交換

質疑応答、委員からの意見交換

（3）その他

6. 会議経過

（1）報告事項について

事務局より資料説明<別添資料参照>

1. 「健康うらやす21（第2次）」は、健康増進法に規定される市町村「健康増進計画」で、平成30年度に計画の見直しを行い、これまでの「浦安市母子保健計画」の他に「食育推進計画」並びに「自殺対策計画」を包含させた改訂版を策定しています。健康うらやす21（第2次）の基本理念は、「ウェルネス・ライフうらやす」の実現になります。施策の展開としては、栄養・食事及び歯・口腔の健康、身体活動、健康管理・予防、心の健康の4つの健康分野ごと及びライフステージに応じた取り組みの2つの切り口から推進していきます。計画の推進にあたっては、庁内の各事業や関係機関の取組を、“健康”を切り口に“つなげて”いき、さらに庁内だけでなく、学校や企業や団体、市民活動など、多様な人達を巻き込んで“動かしていく”そして、市全体に“広げていく”という視点をもって、つながりを通した健康づくりを推進していきます。

浦安市の現状と健康課題については、市民の死亡原因は、「悪性新生物」が32.0%と最も多く、働く世代では、がんによる死亡が約5割を占めており、心疾患や脳血管疾患などの生活習慣病が上位を占めています。特定健康診査受診率、がん検診受診率、どちらも受診率が低く、国の目標値に達していません。高齢期においては、介護が必要になった要因を見てみますと、高齢による衰弱をのぞいて、転倒骨折が18.5%と最も多く「脳血管疾患」「認知症」と続いています。15～39歳では、自殺が死因の1位で、働く世代でもがんが続いて多くなっています。市民の生活習慣をみると、バランスのよい食事のとっている人や減塩に気を付けている人、また、望ましい運動量を確保している人の割合は、国と比較して少ない状況にあり、特に働く世代の生活状況に課題が見られます。

以上のことから今後の方向性としては、①子どもから高齢者すべての人のすこやかな生活習慣の形成、②健康に無関心な層にも届く健康づくりの推進に取り組む必要があります。特に健康課題の多かった働く世代を意識して、関係団体とつながり、地域に向向くこと、そして、さまざまな分野の人とのつながることで、なかなか事業の参加してくれない、待っているだけでは出会えない人たちへ届くアプローチになると考えます。

令和元年度の取り組みの評価についてですが、今回の評価の視点としては、各課の取り組み事業を『取り組みの方向性』や『行政の取り組み』の中で、できていない項目はないか、また、事業を効果的に行うために、つながってみたいところや、どのようなつながり方ができるかを見ました。結果、分野毎ライフステージ毎どちらも、計画書にある『取り組みの方向性』や『行政の取り組み』に基づいて実施しており、コロナの影響で事業を実施できなかつたり、実績が減っているものが見られましたが、取り組みができていない項目は少ないようでした。ただ、身体活動の分野で、青年期・壮年期への取り組みについて十分にできていませんでした。事業を効果的に行うためのつながり先については、母子保健や高齢者部門では、すでにつながっているところも多くみられました。課題とされる無関心層を含め自然に健康になれる環境づくりを目指すためには、計画書にあげた取り組み事業を十分に行うことともに、企業や学校、活動団体など、地域の様々な社会資源とつながっていく必要があると感じました。今回の評価を踏まえて、今後の取り組みとしては、市全体の健康度を上げるためには、健康に関心の低い層へのアプローチが必要で、今年度からは、『地域健康づくり事業』として事業化して、計画的に取り組む予定です。

コロナの影響で計画どおりには、取り組めていませんが、具体的な取り組みをいくつか報告します。まずは、情報発信についてですが、忙しくて健康に無関心になりがちな若い世代や、働く世代

にも情報が届くように、新たな形での情報発信を行いました。コロナ禍で自粛生活が続く中、感染症予防や健康に関する情報、熱中症に関する情報を、ホームページや重要なお知らせメールと市のツイッターで情報を発信しました。熱中症予防に関しては、大塚製薬と協働で、市役所庁舎と公民館、総合体育館などの運動施設で、熱中症予防を呼びかける館内放送を行いました。次に、子育て世代へのアプローチとして、子どもを対象にした公民館事業に参加した親子を対象に、手洗いチェッカーを活用し、感染症に関する意識の向上を図りました。働く世代へのアプローチとしては、市民の生活と密接な商業施設との連携として商店街連合会と連携し、従業員の健康管理のために、生活習慣の改善など生活習慣病の予防や、がん検診受診勧奨を行っていきます。さらには、商店を利用する住民に向けた情報発信の場を担ってもらうように働きかけを行います。新浦安駅前のマルシェと連携し、マルシェにブースを出展し、健康情報の発信を行う予定です。また、スーパーと連携し、来年度はスーパーで検診車を活用した乳がん検診を実施し、がんの普及啓発を行う予定です。図書館と連携した取り組みでは、市民が「がん」について考える機会を増やすことを目的として、中央図書館で、12月に「がん」をテーマに展示ブースを設営し、「がん」に関する情報発信します。食育推進計画では、他部署の栄養士と連携した取り組みとして、令和元年度「カミカミレシピ」「ちばの恵みご膳：浦安バージョン」を他部署の栄養士と一緒に作成し、市民に紹介しました。令和2年度は「朝食について」の展示物・配布物の資料を共同で作成する予定です。また、11月9日～13日に庁舎1階市民ホールで「食育パネル展」を実施しました。

母子保健計画では、妊娠期から切れ目のない支援を目指して、特に子育て期に子育て世代包括支援センターの機能の周知を図り、気軽に相談できるような取り組みを行うことで、育児不安や虐待予防の取り組みを強化していきます。具体的な取り組みの1つとして、利用者支援事業があります。子育て世代包括支援センターの機能の周知のために、令和元年7月より週1回、乳児の身体計測や相談ができる窓口を設置しています。

2. 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施については、高齢者の身体的、精神的及び社会的な多様な課題に対応し、高齢者一人ひとりの状況に応じたきめ細やか支援を行うためには、高齢者保健事業と介護予防を一体的に実施する必要があります。2024年度（R6年）まで全市町村で実施するようになります。本市においては、どのように実施していくかまだ検討段階にありますが、対策の1つとして、地域における通いの場の更なる充実に向けた取り組みがあります。通いの場等に生活習慣病等の重症化予防の視点でアプローチとして、通いの場等に、保健師・栄養士・歯科衛生士等の医療専門職がかかわり、健康づくりに関する普及啓発や健康に関して気軽に相談できる場として健康相談を行う方法です。また、市内の大学や浦安リハビリテーション連絡会と連携し、通いの場等で地域のリハビリテーション専門職からの助言等を行い、介護予防の普及啓発を行えないか検討するなど、医療専門職を含めて、さまざま形で、保健と介護の両方の視点から一体的にかかわる必要があります。さらに、高齢者の社会参加の促進として、より多くの人に届くように、民間等と連携し、通いの場の拡充を図る必要があります。

## （2）意見交換

（委員長）

事務局から説明があった内容について、ご質問やご意見がありましたらお願いします。特にその中でも健康無関心層、いろんな意味でまだ健康に対して関心が向いていない人や、自分自身の体調が悪くても行政や地域の中での活動に無関心な人たち、その無関心な人たちへのつながり方やつながり先をどのように考えたら良いかについてのご意見をいただきたい。地域における高齢者の通いの場について説明がありましたが、その通いの場での取り組みについてもご意見ご質問がありましたらお願いします。

(委員)

全体的に前回の1月にお話しいただいたものと、コロナが始まっているにもかかわらずあまり具体的に内容が変わっていないというのが率直な感想です。スポーツジムでインストラクターをしています、健康を意識されている方とそうでない方の差がすごく広がっているのが事実です。ジムに通われている方は本当に意識の高い方ですが、通いの場に来るまでの具体的なアプローチの仕方がよくわからない。コロナが始まって、計画の中の一部は大きく変更していかなければならないこともあると思います。こちらから出向いて行って、公園でも何でも皆が外で動ける状態を作っていく、例えばラジオ体操がとても良いということを推奨したり、学校や公共のたくさんの方が集まる場所で伝え、一度に一人でも多くの方に伝達できる機会をもち実践して、みんなで体を動かすことを具体的にやっていくと良いのではないかと感じました。

(委員長)

ありがとうございました。行政として健康無関心層へ届くつながり方、今はこんなやり方でやっているというのをもう一度説明をお願いします。

(事務局)

通いの場ですとかに行かれる方は基本的に健康的なことに比較的に関心があって、どちらかというところに行動が移せないようなお忙しい方ですとか、人と交わることはあまり好きではない、自分から動くことができない方、高齢者の通いの場でもそういうところに来られない方のほうがどちらかというところの問題であろうと思っています。そういう方に対して、若い世代の方に関しましては、今は商工業の方々との取り組みなどに重点を置いています。例えば新浦安の駅前で行うマルシェみたいところで、もともと健康の情報を取ろうと思って集まってきている人ではないけれども、そういった別の場を通してそこで健康の情報を拾っていくことができるだとか、そういった取り組みなどをもっと多くしていかなければいけないと思っています。あと具体的に、高齢者の方ですと、先ほどの一体化の問題など事業などがもう少し取り組みが進んでいきますと、すでに検診データですとか様々なところから何らかりスクの高い方をリストアップさせていただいて、直接その方にアプローチをかけていくというようなことも行っていく予定でございます。

(委員長)

いかがでしょうか？何かアイデアがありましたらいただきたいと思います。

(委員)

すごく事業が多くて大変だなと思います。

(委員長)

事業がたくさんありますから、逆に行政の職員だけではもちろんやっていけませんので、ここにお集まりいただいた委員、そして市民の方々の応援をいただいてやっていかなければならない事業なのかと思います。つながり方などアドバイスいただければと思います。

(委員)

市民の方が平等に使える、例えば学校などがいいのではないのでしょうか。お年寄りだけでなく、本当は運動したいけれどできない方とか、子育て中の方など、お金を払って毎回できるわけではなく、一度出てしまえば自分で気づき、できることもあると思います。マルシェや市民祭りなどで、職員の方でもいつものラジオ体操している方でも、そこでラジオ体操を流してみても、公の大きい場所を上手に使っていただいて、お子さんも見ながらなんとなく楽しく動けるなど、動きのスペース作っていただけるとお話もできたり良いと思います。

(委員長)

コロナによっていろいろと集まる場が難しいこともありますけれども、そういうつながりを大事にということですね。ありがとうございました。

(委員)

今の話に関連してですが、高洲中央公園で毎日朝6時半に高齢者だけではなく結構な人数の方が集まってラジオ体操をしています。コロナ禍で、屋外でいろんな場所で誰でも集まれて、簡単にできるものが常時行われているという場を設けていただけると、自分で行きたいと思うときに行けるのではないかと思います。これはコロナ禍ではなくてもこれから人と交わることが少なくなるので、そういう屋外で場所を提供していただけると良いと思っています。

(委員長)

ありがとうございます。今のご意見でいつも行政が主導でなくて、ここにいらっしゃる連合会の会長さんたち、何かそういったような企画など、お考えになっていることはありますか？

(委員)

今の状況として私どもも11月に入ってから少しずつ活動を始めた感じです。この間は三番瀬の掃除があり、400人集まったそうで、その中の130名ほどが老人会から参加しております。マスクして、消毒してやっています。今度22日にまた130名ほど集まってディズニーウォークというのを開催いたします。ディズニーランドの周りを1時間半かけて歩きます。それも密にならないように4グループに分けてする、三世代交流ということです。コロナ禍においてそういうことをやり始めてはきています。これはコロナ禍においてではなくて、先ほどおっしゃったようなラジオ体操など、誰でも参加できるようなものなど考えていただければいいのかと思います。

(委員長)

ありがとうございます。本当に最大限の注意を払って、今回この中にありました保健事業と介護予防の中で、健康づくりの専門職がその場に居合わせていく、まさしくそういうところに保健師や様々な方がどんなふうに注意をすれば良いかというのを一緒に考える場として進んでいくというのが、国のほうからも言われていますので、事業を企画された時には浦安市とつながってやっていただけるといいと思います。情報提供ありがとうございました。他今のようなお話はございますか？

(委員)

私どもは8月から婦人の会と自治会と地区の老人クラブと地区の婦人会と一緒にマルシェをやっています。高齢の方で買い物になかなか行かれないような方を救済しようということで、自治会で場所を借りまして、月に1回第3日曜日にマルシェをやっています。先ほどマルシェの話も出てきましたし、おひさま体操ですか、高齢者はラジオ体操といっても結構ハードですね。おひさま体

操というのが、すごく興味が湧いたのですが、今度教えていただいてマルシェのときには流して教えていただこうかと。一度おいでいただいていろいろな情報を流していただこうかと思いました。

(委員)

いろいろなところに出て行かれる方は積極的に出ているわけですから改めて市がやるよりもお任せしても良いのかなと思います。自治会でも、夏場お祭りとか餅つき大会をやりますが、そういう場にも出てこないし、家の中にこもっている方を表に引っ張り出す方策を考えるべきではないかと思います。お宅へ「どうですか？」ということで行ってもなかなか出てはこないとは思いますが、結局家にこもっている人が結構多いということですね。

(委員長)

ご意見ありがとうございます。本当にその通りで、家にこもっている方々にどのように情報を伝えていけるか、何か良いご意見ありますでしょうか？

(委員)

老人会の方では、各戸に“老人会、こういう良いところですよ”というチラシをとりあえず配ります。マンションはポスティングしたりして、戸建は一軒一軒にそれを入れてどうですか？というふうにしてやっております。老人クラブは今 3,500 人ほどいるのですが、その何十倍も浦安市はいるわけですよ。それをいかに老人会の方に引っ張り込むかが本当に悩みの種でございます。

(委員)

浦安には元町、中町、新町がありますが、全く違う国のように地域性が異なります。情報発信するにしても、元町は出向いて行って引っ張り出すということが大事で、チラシを入れただけでは、誰も自ら来ないというような地域性があります。地域支えあい会議では、通いの場と言いますか集まれる場を模索する会が、今元町、中町、新町全部にできてきたところです。社会福祉協議会の“ぽっかぽか”が堀江のほうにあり、当代島でも誕生させようという動きがあります。浦安は一口に言っても全然違うということは、市役所の方も大変ご苦労されているところだと思います。それと、この支えあい会議ですとか、いろんな課が同じような方向で探している場合もあるので、それをもう少しまとめていただくとありがたいと思っています。

(委員長)

確かに中町、元町、新町と 17 万人でしたでしょうか、その一つずつの町が他のところでは市になっていたりしますので、一度に一つの対策というのは本当に難しいと思います。

(委員)

検診率ですが、子宮がんが 26.7%、乳がんが 19.7%で、乳がんは自分で指定された日に行かなければならないので、受診率が下がっているのもあって、病院で受診できるようになると少しは上がってくるかなとは思いますが。先ほどツイッターを拝見させていただきましたが、どちらかというと堅い感じのものになっていて、これで受診率をあげるというものではなくて、ただ情報を発信しているという感じで、インスタやっていなかったの、インスタを使って受診率をあげるのも一つの手かなと思います。あと、神崎恵さんや石井美保さん長井かおりさんなどを招いて、メイクに関するイベントを行った時に乳がんの検診とか子宮がんの検診も、浦安市は無料で受けられますみたいなことをお伝えしていただくと、若い世代 10 代後半から 40 代に向けて、とても受診率が上がることはないかなと、こういうのがあれば自分自身は参加してみたいなと思ったので、個人的な意見ですけど入れてみました。

(委員長)

ありがとうございました。今のご意見もまた取り入れさせていただきたいと思いますが、若い世代だけでなく人がイベントに参加していこうとなるための取り組みに何かアイデアがありますか？

(委員)

それが一番難しいと思いますが、やはり有名な方のお力添えというのは、若い世代がお話を聞きたい、この方の美容方法を聞きたいというのだと集まりやすいというのがあるって、SNSを活用するのも一つの手かなと思います。

(委員長)

地域の中にはいろんな人がいらっしゃるので、その方々と交流していくっていう方向性で何か良いアイデアがあればなと思います。他の委員もいかがでしょう。

(委員)

子育てしている若いママ達、生後3か月から4か月のお子さんをお持ちのママ達ですが、かなりこのコロナ禍で煮詰まっていると思います。現に私たちの訪問も、以前はアポなし訪問が原則でしたが、今は事前にアポをとって、コロナ禍ですが訪問いかがですかとご意向を確認し、それからまた当日も電話で体調を確認して、それも全員ではなくて保健師さんのほうから依頼のあった方だけの訪問になっています。だから精神的にも外に出にくい時ですし、かなり煮詰まっているのではないかと思います。子育て中の娘に、自分の健康について何か困っていることないか聞いたら、やはり子どものことだけで精一杯で、普段もそうだけれども、さらにコロナの状況では自分の健康に気を配る余裕もないし、うつたら困るから自分は具合悪くても我慢してしまう、人混みにも行きたくないということで、すごく後回しになっているから、そういう状況のママが多いのではないかと思います。ママ同士でも価値観の違いがあるので、気遣いしすぎて遠ざかったりして繋がれないという部分もありますし、健康という意味では、このままでは心身共に不健康になってしまう方が多いのではないかと思います。決して無関心ということではなく、関心があるけど出ていけないのが若い子育てママだと思うので、情報をどこで得るかということに関して、今のインスタとかもすごく手軽で、きっと若いママには届くと思いますし、あとどういうふうにしたら届くかということに関して、自分で取りに行く余裕もないというのが本当のところみたいです。だから気軽に見られるものとか、発信の中に折り込んでいただいて、受けると何か健康に対して自分も動いてみようかなと意識が出てくるんじゃないかと感じました。

(委員)

このコロナの状況のなかで私自身が感じたことですが、無関心層にはたぶんいろいろな層があり、ただ忙しいだけの人もいれば、情報がとれないという人がいるので、一括りに無関心な人に対してこういうことをやったらいいというのは言えないと思っています。私自身あまり健康意識の高い方ではないですが、そんな私でさえも、コロナの時は家から外に出ることもほぼなくなったので、通勤とか小さな運動さえもなくなって、本当に体もすごく疲れ、オンラインで会議をすることも増えたので、肩こりがあったり、体を動かさないという状況になったときに、自ら体を動かしたいという欲求が自分の中から出てきたのが、すごく不思議だなと思いました。また、外に出ないということで、心がふさがちにもなるんだなということを感じました。私の場合は、オンラインを使っていろいろな方と繋がっておしゃべりをするような場を積極的にとることで解決したり、オンラインで体を動かすための体操やヨガをやって、コロナで外に出られない期間を過ごしていました。なので、私自身も無関心層ですが、そう

いう本当に自分が困ったことに直面した時には、何かそこを解決しようとして努力するものだと思ったので、日常的に本当は困っていることがあっても忙しくて優先順位があがってこないというところなんだろうなと思っています。何か取り組みをされる時にもきっと困っているだろうなというところに視点を置いた情報提供だったり場づくりをされると、行ってみようかなとなるんじゃないかと思いました。検診が大事だとか食生活、運動が大事だというのも頭ではわかっていますが、そこに困っているという感覚がないので、時間をかけていこうというふうになかなか私は思わないなと思ったので、肩こりがありますよねとか、心が鬱々としていますよねとか、困っていることと関連させてもらえるとそこには興味湧いてくるなとすごく感じました。

(委員長)

ありがとうございました。どんなふうな伝え方をすれば相手に響くかなというフォームのやり方も大事かもしれませんね。

(委員)

私の子どもが小学校に通っていますが、すごく困っていることは、富岡小学校の場合、朝と帰りの交通指導に保護者が出ないといけないですが、本当は高齢者の元気な方がその代わりにしてくれるとすごく助かるなというのが正直あります。たぶんそういう方たちはさっきおっしゃっていたような自分から出てくる方しか出てきてくれない。やはり、家に閉じこもりがちの方はなかなか出てこないのかなと正直感じています。他にどうしたら良いのかなと考えたときに、男ってどちらかというあまり人となりがりたくないというところがある気がしています。余計なことに巻き込まれたくないとか、そういうところが、女性と大きく違うのかなと。あるテレビを見たときに、デイケアセンターで歌やゲームで遊ぶことはしないらしく、何をやるかという、麻雀が置いてあるのとスロットマシンが置いてあったんです。それでデイケアセンターに来た人に、体操したら10ポイントあげますと。そのポイントを使って遊べますという感じで、他の人とは繋がらないけれども、健康以外に目的があると出ていきやすくなるのかなと思って、そういう対策がもし打てれば、それはそれでいいかなと思います。

(委員長)

特にお話いただいたところは、健康というか無関心層というか自ら出てこれない方々への繋がり方をいろいろ聞かせていただきました。また高齢者の集いの場での取り組みとかいろいろみなさん大変だと思いますが、他の自治体でもそうですが、サービスの受け手だけではなく、今日ここにきていただいている委員の方がいるように一緒に街を作っていく発想でいかないと、先ほどの人数が少ないことだけでなく、自分たちの街なので、自分たちが意見を出して関わってやっていくことなのかなというのを、今お話を聞いて思ったところでもあります。是非全体を見てこういうふうにやっていけばいいんじゃないかというご提案をたくさんいただけたらありがたいなと思います。

(委員)

本来なら学校がいろんな人が集まる場になって、こういった無関心な方を取り込んだり、高齢者の方も活躍できる場にしていけばいいところですが、なかなかいまPTAも親父の会も活動ができないというところで、学校としても困っているところではあります。また第3波というのも言われていますので、学校としてもなかなか取り組みが難しいところです。子どもたちも家にいる時間が長かったので、体力が落ちたというところ、それから学校歯科医の先生からも今年は虫歯が多いという話がありました。家にいる時間が長いとどうしても甘いものを食べてしまうというところで、

例年より虫歯が多いとご指摘をいただきました。いろんなコロナの影響はあるとは思いますが、工夫してやっていくしかないと思います。あと広報活動をどうするかというところで、もし市のイベントであれば学校を通して保護者にチラシを配るとか、そういうことは可能だと思いますので、学校としてもできる範囲は協力していきたいと思っています。

(委員)

市民大会は競技によって室内競技とか屋外がありますので、特に野球協会とソフトボール協会が無事に終わりました。柔道の場合、市民大会は無理で、ただ練習はやらせてほしいということから、体温測ってマスクして練習しています。柔道に関しては県でも東葛でも試合はするなよと。先ほどの話で、コロナがだいぶ千葉県でも浦安でも流行っていると思いますが、浦安地区で、できれば猫実地区、高洲地区、堀江地区で何人という情報が入れば、先ほどの老人クラブの散歩もコースを、ある程度そちらのほうに行かないでコースを回るだとか、そういう工夫があるかも。年寄りがかかると大変だそうですから。委員長がいろんなことをやってくださいとご意見でありましたが、もっと我々に対しても情報を提供していただきたいですね。

(委員長)

是非ここではいろんな情報を提供していきますので、それをまたご自身の団体のほうに伝えていただけるとありがたいです。

(委員)

無関心層に対してですが、やはり仕事の忙しい方は仕事をして、お休みの日は疲れて寝ているというサイクルになってしまうと思いますので、市内企業とか事業所との連携をもっと図っていただけると社会人で一人暮らしの方も、会社での健康診断は受けると思うので、そういった時に、もっと細かいアプローチを企業と発信していくと、なかなかそういう若い方はイベントとかは参加する機会とか時間も無いと思うので、企業として発信できる場を作っていったほうが、そういった無関心層の方も機会が増えるのではないかと思います。

(委員長)

皆さんいろいろな立場からご意見ありがとうございました。本当に 17 万の人口の大きな市ですので、それぞれの地域でまたいろんな考え方ややっていることも違って来るかと思しますので、みなさまのご意見をこれからもいただけるとありがたいと思います。皆様今日はありがとうございました。時間が押していますので、以上をもちまして会を終了させていただきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。今日はありがとうございました。それでは事務局に戻します。

閉 会

(事務局)

委員長どうもありがとうございました。皆様から大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。健康うらやすが人と人が繋がる中で健康を推進していくとっておりますが、このコロナの中でなかなか繋がりにくい状況になっております。それでも先ほどのご意見のように、顔と顔が見えてだったら出ていくわという人もいれば、オンラインの中で繋がりながら少し心のモチベーションを保つということもあったりですとか、繋がり方のツールをもう少し増やしていかないとなかなか推進ができないと思っております。今日いただきました意見をまたいろいろと工夫して取り入れていきたいと思しますので、引き続きご協力をどうぞよろしくお願い致します。